東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2006 年 5 月 4 日

臓器移植

親愛なるムスリムの皆様。クルアーンやハディースにおいて、臓器や組織の移植に関する明白な判断は示されていません。クルアーンやハディースで明白な判断が示されていない、それぞれの時代に出現する新しいテーマに関する判断は、イスラーム法学者によって、一般的な法規や判断が明白にされている類似したテーマと比較することによって決定されてきました。どのような問題でも答えのないまま放棄されることはありません。

知られているように、人間は完全な存在です。アッラーは被造物の中で特別な存在とされたのです。このため、通常の場合、死亡した、もしくは生きている人間からとられた組織や臓器を役に立てようとすることは人間の尊厳やその奇跡性に反するものと見られるため、イスラーム法学者たちはこれを適当なものとは見なしてきませんでした。ただ、やむをえない場合、その必要性の程度、具合によってこの判断は変えられてきました。

ムスリムの皆様。実際、不正に屠殺された動物、血、豚の肉、ワインなどを飲み食いすること、取引すること、薬として利用することは禁止されていますが、やむをえない場合はその必要度に応じ（死を逃れえる程度）これらを飲み食いすることが合法であることが明らかにされています。

イスラーム法学者たちは、様々な章句において、やむをえない状況で、他の選択肢が見出せない場合、全ての禁止事項がその必要具合に応じ、合法として実行され得るとされている、という結論に達しています。例えば、おなかの中で生きている胎児を救うため、死亡した母親のおなかを開くこと、他に治療法がない場合、折れた骨の代わりに別の骨を移植すること、未知の病気の研究や病気の治療への可能性を切り開くため、近親者の同意を得た上で死者を解剖すること、これらは合法であるという判断が示されています。生きている人を救うために、死んだ人の体の一部を利用することは合法とされているのです。

一方、イスラーム法学者たちは、空腹や渇きと同様、病気もまたハラームを許す、1 つの「やむをえない事情」であると見なしています。他の治療法が見つからない患者が、ハラームである薬や物質によって治療を受けることが合法と見なされているのです。

従って、いくつかの条件に従えば、命や命に関わる臓器を救うため、他の手段が見つからない場合、組織や器官の移植による治療を行うことは合法とされています。

トルコ以外の多くのイスラーム国家においても、それぞれの国の組織によって同じ判断が示されています。簡単に言うと、以下の条件に従って行われる場合、臓器や組織の移植は合法です。

やむをえない状態であること。患者の命、命に関わる臓器を救うために他の手段がないということが、専門家によって証明されていること。

医者に、その方法での治療についての高い能力があること。

器官、組織をとられる人が、その時点で死亡していること。

社会の安定や均衡を損なわないため、臓器提供者が生前に臓器の提供に同意していること。もしくは臓器の提供を断っておらず、その家族が承諾していること。

提供された臓器に関して金銭のやり取りは一切行われないこと。

治療を受ける患者も、自らが受ける移植について同意していること。

最も正しいことは、アッラーがご存知です。